



BRILLIANCE IS BRIGHTNESS OF A SWORD.

愚者の黄金

再録版

A FOL'S QUIN

FOR
ADULT
ONLY



お兄ちゃん！
待って！

わたし、
私ね



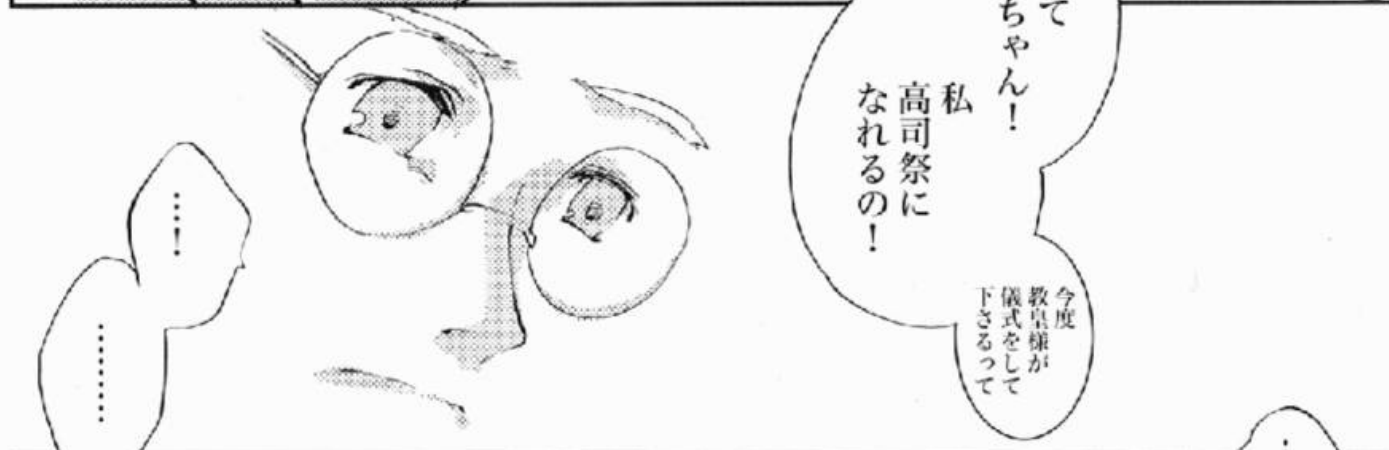
そんなに
走ると
転ぶよ

どうしたんだい
アリシア

聞いて
お兄ちゃん！

私
高司祭に
なれるの！

今度
教皇様が
儀式をして
下さるって



……

……



……そうか……

良かったね
アリシア……

あのとき
お兄ちゃんの
瞳に浮かんだ色

その表情の意味を
私は
知らなかった……

愚者の黄金

A FOOL'S GOLD

昏い昏い 階段を降りて

御出でなさいな 私の国へ

そこは全てが在って
全てが無い

私が忘れてる処

A ROMANCE IS BRIGHTNESS OF SWORD2
ALICIA CHRISTOPHER DARK STORY

GLASSED CONCRETE / RIUKU NARITA
2002 WINTER PRESENTS





昏い昏い 階段の底に
私の心が息づいている

そこにはただ暗闇がある
何一つ無い暗黒が有る

輪郭持たないその混沌
人の心の闇のよう



随分
暗いですね…

それに
寒い

酷い荒れ様
長いこと
使われて
いなかった
のでしょ
うか



神殿の地下に
こんな迷宮が
あるなんて…



今朝
自室に届いた
手紙

手紙には
神殿の地図と
古びた鍵が一本



この
ようですね

行ってみなくては
ならない
私は今(高司祭)
なのだから



どこにも署名は
見当たらないが

鍵は確かに
高位聖職者しか
存在を知らないはずの
ものだった



血の錆びついた生臭い臭い？

うっ...

重い... 錆付いているのでしようか

...? この錆びは...



失礼しました部屋を間違えました

間違ってますいませんよ既に準備は整っています



準備?

『彼』がお待ちです

あつ...

な…なんですか？
『これ』は…！
なんと禍々しい…

おや
高司祭とも
あろう方が

まさか
ご存知無い訳が
ないでしょう

この神殿に棲む
我々が
仕える第一の神

プロトーン神の
数あまたある
現世の姿の
一つですよ

な…

まじあ





あつ
何さっ

きやあ
ああ!

放しなさい!

私はこの
プロトーン神殿の
高司祭

アリシア・
クリストファ
ですよ!

勿論存じ上げて
おりますよ
ですが

んぐ...

んぐ...



まじまじまじまじ

彼の力を
持つてすれば

貴女の首を
ねじ切る事など
造作もない
事でしょうね

暴れると
ろくな事に
なりませんよ

……っ
私を……

いったい
どうする
つもりなの
ですか

え……っ？

心配せずとも
すぐに
わかりますよ

い……や
なにっ

や

やめて

いやあああ

何

ほう…

これは
なかなか

食いつきの
いい体
になったもの
ですね

「彼」も
喜んでいる
ようですよ

いや

ヒッ

あつ…

ここに初めて
来たあの頃とは
比べるべくもない

や

クク…

あの時の
貴女は唯の
童女でした
からな





おや
何故
震えているの
です

貴女は何か
思い違いを
しているようだ

これは貴女の
為に逃えられた
儀式なのに

儀式？
私の？



これが
私のせい？
何故

私が何を
したと
言うのですか



あッ！

まっあああああ

アッ

さっー

ふむ
良かった
ですね

どうやら貴女は
「彼」のお眼鏡に
適ったようです

や…
やめて…

気持ち
悪いっ…

キルル!

キルル!

あ

さわり
ないでっ

あっ…

気持ち悪い?
それはまた
ずいぶんと
不穏な発言だ

高司祭とも
あろうお方の
お言葉にしては
些か不適當では
ありませんか

うっ…

「彼」に対して

い

や



頭の中が痺れてきたでしょう？



な…なに？
これ…
どうして…

「彼」の分泌する液には麻酔作用があるんですよ

口からも敏感な処からも擦り込まれて

そろそろ堪らなくなってきた頃でしょう



貴女の身体から液体が噴出し始めていますよ

そんな…
あ…

いや
離して
誰か…

嫌と言われても貴女の身体は欲しているのですよ？

そして「彼」もね

や…何を

いやいや
いやいや

やめて来ないで

いや

あっ

暗黒よ

犯せ

!!

いや
いやあつ

うあああ
——
!!



うあああつ
いた…いつ

裂けちやう

おやおや
少し無理をさせて
しまいましたか

あれだけ汁を
漏らしていたから
大丈夫かと
思いましたが

痛あつ

やめてえッ
お腹破け
ちやうッ

あ？
あうう！

ヒッ
ぐうう

それも最初だけ
すぐに慣れますよ
ほら…もう

貴女は殊更
飲み込みが
早いですね

おねが…い
下ろして
くださ…い

苦しいの…
きもち…
わるいい…

吐いても
構いませんよ

苦しいッ
痛い

あぐう
うあッ

カ
カ
カ

カ
カ
カ

カ
カ
カ

カ
カ
カ

カ
カ
カ



苦しいか

苦しいっ…

憎いか
悔しいか

悔しい…
憎い…
痛い…!

気持ち…
悪い…!

そうだ
その感覚だ
覚えている
だろう

お前の内に
澱んでいる
嫉妬憎悪嫌悪
軽蔑敵視憤怒

思い出せ
アリシア

おい見てみるよ
あの子だよ

ああ、あの八歳で
修士になった？

枢機卿の父親と
高司祭の母親から
生まれた
天才少女…ねえ…

しかし
八歳で修士だったの

親の七光りって
やつか

気に入らないんだよ

クリストファ家の
お嬢様だかなんだか
知らねえけど

いい気にな
るなよ



私の心の中を覗かないで……!

もうこれ以上

お願い許して

お願い……

もうやめて……

もう

そうはいきませんな

貴女は思い出さなければならぬ

さっ

ア

ブル

ア

ザク

いせ……あ



気持ち悪い

痛い

苦しい

怖い

助けて

離して

もう



じゃあ
誰からだ？

ガキなんか犯しても
面白くねえけどな

ならお前は
見てろよ

バーカ

俺は最後でいい
お前らどっちか
先にやれよ

こいつに
選ばれるか

ハハ



やばい
レイルだ

クソ
逃げろ

おい!?
そこで何をやって
るんだ!

あ?

大丈夫
かい

アリシア!

アリシア!

アリシ...ア



...傷を...
見せて
ごらん...

やめん！やめん！

もう……
やめて……

お願い……
もうやめて……

そうそれでいい
やっと思いい出し
ましたね……いや

忘れたふりを
していたの
でしょう？

うああ

けれども
貴女の身体は
よく覚えていた
ようですね

うあああ



「彼」も忘れては
いないそうですよ

や……!

貴女が忘れても
彼は貴女の
恥部と過去を
覚えている

やめて
言わないで

貴女の忌わしい
記憶全て
彼は覚えている
そうですよ

違う…違う…
お兄ちゃん…は
違う…!!

思い出させ
ないで…

う…う…
おにい…ちゃん

はやく…
助けに来て…
おに…ちゃん…

助けて
助けてっ…

助けて
よお…

助けて…
お兄ちゃん…!!

アッ…

アッ…

アッ…

アッ…

無駄ですよ

ここに
貴女を呼んだのは
レイル

貴女の兄弟子
貴女が兄と慕う
その人なのですから

う…そ…

そ…んな
おに…ちゃん

そんな…
こと…

あ

…う…あ

や…

う…そ

おに…
ちゃ…が…あ

あゝあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝ

あゝあ

あゝあ

おやおや
可哀想に

壊れて
しまいましたか

うああ—

うあ—

ああ—
うああ—あ—

愛する兄の
裏切りが
そんなにも
辛かったの
ですか

か
うあ—

か

か

哀れな小娘よ
白らの仕える
神の正体も知らず

高司祭などと
持ち上げられ

全てのこの世に
生あるものは所詮
死の神の奴隷でしか
ないというのに…

白らの才能が
愛する兄を
苦しめているなど
思いも寄らなかつた
のであろう？

それが持てる者の
傲慢なのだから

さあ
そろそろ仕上げです
貴女の高司祭としての
初めての責務です

立派に
勤め上げなさい

さあ
受け止め
なさい

プラトーンの
聖液を！

あ
うああ

ああ

お腹が
お腹が

破裂

しちやう……

あああああ



ア
リ
シ
ア
・
ク
リ
ス
ト
マ
ス
の
新
し
い
『
黒
き
聖
母
』
の
誕
生
を
祝
じ
て
……!!



ミル...

ミル...

ミル...

仕事は
終わりで
浄化槽へ
連れて
行ってやれ

身体の傷は
癒えよう

身体の傷だけはな...

.....

これで
良かったのか
ライル

アリシアは
お前の...





ええ

高司祭になる事を
望んでいたのは
彼女ですから

……

——それに



私は彼女や皆や…
自分自身が
思っていたほど

『いい人』では
なかったん
ですっ……

自分を追い抜いて
高司祭に
なってしまった『妹』への

醜い嫉妬を
止められない自分

アリシアに…
十三も年下の
妹弟子に

同情されるなんて
耐えられなかったんだ…!!

醜い醜い自分

深遠の闇が 口を開けて待っている

……

ああ

闇に
囚われたのは

私かも
知れませんか……
……

もう戻る道はない

汝 閻の眷属なり

END

ALICIA CHRISTOPHER DARK STORY

愚者の黄金

成田りうく

奥付

「愚者の黄金 再録版」


2010年8月15日発行

発行元 みみみみ／成田りうく

連絡先URL <http://mimimimi.net/>

印刷 フリーク様

無断転載アップロード等ご遠慮下さい



この「愚者の黄金 再録版」は
以前 旧サークルにて発行しました「愚者の黄金」に
コピー誌で発表したロマ剣2まんが及び
「愚者の黄金」予告編まんがを追加して
再録したものです。
触手エロス本なのに
次ページからのエルファークシア漫画だけがほのぼの
なんだか浮いておりますが…。
個人的に気に入っている本でしたので、
お楽しみ頂けていたら幸いです。

成田ゆづ
2010

■初出
「愚者の黄金」
2002.12.30 ComicMarket63
「Gate of Darkness」
2002.11.04 Heartfull Communication

キースさん
覚えていますか？

こんな
月の夜でしたね

初めて
あなたとわたしが
出会ったのは

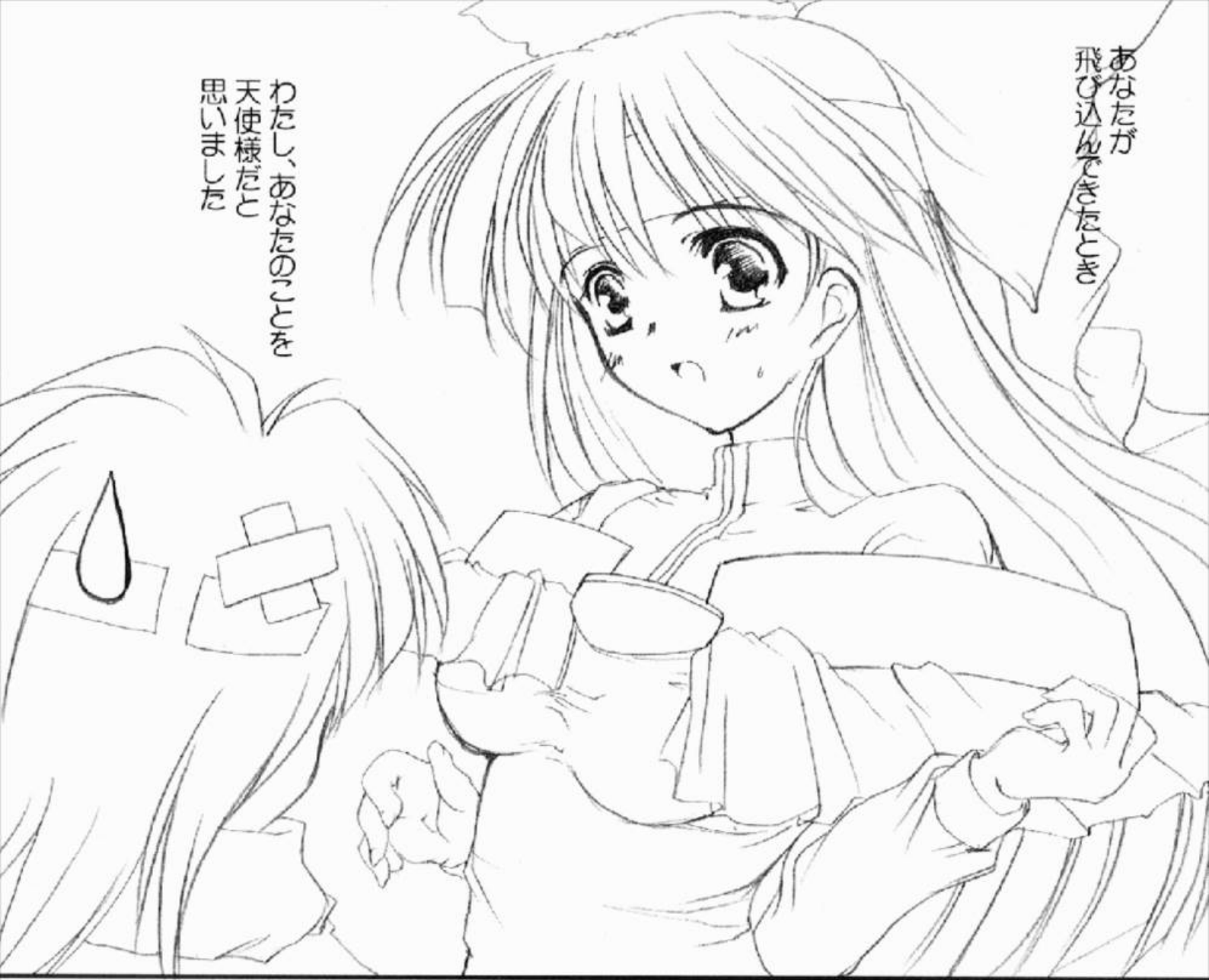
今夜も
どこかで
冒険の旅の
途中ですか？



私の天使様

あなたが
飛び込んできたとき

わたし、あなたのことを
天使様だと
思いました



それは私の
子供のような
勘違いだった
けれど

でも
キースさんは
本当に
私の天使様だ
なってくれ
ました

それから
キースさんが
来てくれるまで

ドキドキして
嬉しいこと
ばかり
起ります

アリシアさんや
リーナさんと
お友達になって

いつも楽しんで

けれど
私はいないのよ



私には
秘密が
あるから…

私の額
リボンの下に
隠された秘密

わたしは
あの時
理解したのです

どうして
私が
箱入りで
育てられたか

そして
『銀の野』のじいちゃん



この額の水晶の事を
知っても
キースさんは
変わりませんか？

夜になると
月を見ると
不安で胸が
いっぱい
なるんです

でも
私
信じています

だって
キースさんは
私の
天使様
ですもの！

いつかきっと
今度は私が
このベランダから
飛び出して

あなたを
追いかけます

わたし
きつとキースさんに
追いつきます
だから

いつかきっと
私も冒険の旅に
連れて行ってくださいわね！

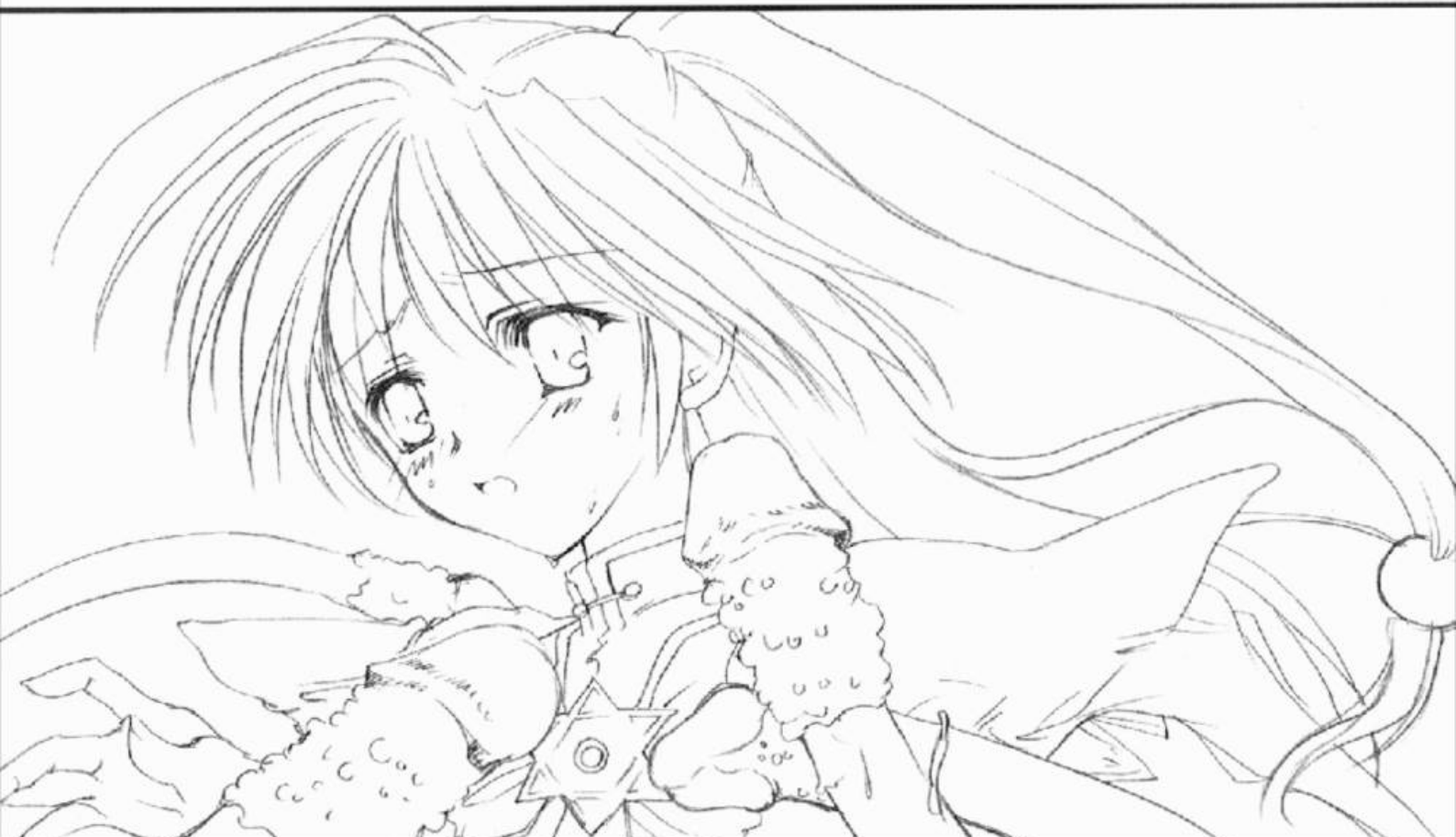


END



愚者の黄金

毒入りの肉に
囚われる
なかれ



誰ぞ知る
神の真なる姿をうして

アリシア殿
貴女は何か
思い違えては
いませんか？

その姿その声
その経典
誰が創りし偶像か

なぜ

私が何を
したというの
ですか

あつ

では
教えて
あげましょう

真なる神
真なる姿を
誰ぞ知る

なにをつ…



これは全て
貴女の為
貴女の所為
では
ありませんか



犯せ

人は やめてっ
離して
抗う腕など
元より持たぬ

ひっ



この世に在るのが
神でも魔でも いやあああ



毒は私の中にある

光に救いを求めるなかれ



汝 闇の眷属なり

「ロマンスは剣の輝きII」 アリシア・クリストファ
ダークストーリー

愚者の黄金

ロマンスは剣の輝きII

アリシア・クリストファ

ダークストーリー



mimimi.net
みみみみ